

アジア・アフリカ ラテンアメリカ

今月の読み物

- 1 面～4 面 新春対談
- 5 面 連載・核禁条約再検討会議にむけて⑥
- 6 面 2026 年の活動計画よびかけ
マレーシアの歴史と連帯の旅
- 7 面 ひびけサイゴン元政治囚の歌声
- 8 面 わたしと AALA

日本アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会機関紙

2026 年 1 月 1 日 No.786



新春対談

アフリカと世界の 今後を語る

明治大学名誉教授
福田邦夫さん日本 AALA 代表理事
宮城恭子さん

宮城 明けましておめでとうございます。昨年はいくつかの県 AALA で先生に講演していただいて、実体験にもとづくお話が反響をよびました。遠い世界のアフリカが急に身近になった気がします。私もショックを受けた一人ですが、今日はずっと詳しいお話がきけると期待してまいりました。

福田 おめでとうございます。私

の方こそ多方面でご活躍されている宮城先生とお会いできてうれしいです。

すばらしい国になるはずだと

宮城 早速ですが、先生がアフリカ研究へ深く入っていくことになったのはどんなきっかけだったのでしょうか。

福田 学生時代に、フランツ・ファノンという人の本を読んで夢

中になったときでしょうか。彼はフランスの精神科医としてアルジェリアに行くのですが、独立戦争を目の当たりにして、フランス軍の凄惨な拷問・尋問があまりに酷いので軍医をやめて、独立を求めて闘っていた解放戦線 (FLN) に参加しました。独立前に亡くなったのですが、植民地主義と人種差別の深い洞察に打たれて、こういう組織が独立を勝ち取ったのだから素晴らしい国になるはずだ、とりあえず行ってみようと思ってアルジェリアに行ったのです。

宮城 思い切ったことをされたんですね。(2 面へつづく)

2026 年をむかえた 当面の取り組み

高市内閣に立ち向い平和の国際連帯を

2026 年も世界は激動の幕開けです。ウクライナやガザでの戦争とともに、アメリカ一国主義のトランプ米政権が各地への戦争と介入を一層強めています。核兵器や気候危機、貧富の格差拡大で難民問題の深刻化し、排外主義が台頭しています。

自公政治の行き詰まりで誕生した高市内閣は、トランプ政権にいつそう迎合して、軍事費の大幅増額と敵基地攻撃のためのミサイル配備を急いでいます。非核三原則の見直しを進めています。「台湾有事」で中国への挑発的な発言をおこない、日中関係を悪化させ、東アジア全体の軍事的な緊張を高めています。アメリカのお先棒を担いで戦争の道に一挙に進みかねない事態です。物価高による国民生活の破壊がすすみ、スパイ防止法の推進など民主主義の蹂躪の動きが強まっています。

しかし世界では、国連憲章にもとづく平和秩序を守

り、核兵器廃絶と人権の強化、環境保護、民主主義の発展を求める国際的な市民運動は力強く前進しています。またグローバルサウス諸国 (AALA 地域) は、大国支配からの脱却をめざし、国連憲章にもとづく公正な世界秩序の模索と挑戦を続けています。日本はアメリカ一辺倒の政治を続けることはできなくなっています。創立以来、バンドン精神と非核の世界の実現を高くかかげて、AALA 地域との人民連帯を進めてきた日本 AALA の役割がますます重要になっています。

10 月 31 日と 11 月 1 日開催の日本 AALA 第 57 回大会は、続会大会となりましたが、戦後最悪ともいえる高市内閣と対峙した旺盛な活動が求められています。三役会議として、他団体との共同の運動とともに、独自の活動としての以下のように当面の活動をよびかけます。

(6 面に続く)

福田「世界が抱えるあらゆる課題の縮図です」



福田 首都アルジェにある FLN 本部に行って農業革命に参加したいと申し出ました。その間1カ月くらい待たされて、あちこち国内を見てまわりました。結局望みはかなわず、エル・ジャジーラという船でフランスに帰りましたが、マルセーユに着いて驚きました。入国手续をする何百人という人が自分の名前が書けない。書いてくれと次々頼まれました。出生地も生まれた年月もわからないのですよ。パリにとどまって移民の多いサンドニ地区に近いボロアパートで暮らし始めました。

宮城 そういうことから植民地主義や移民問題に心を惹かれるようになったのですね。移民を受け入れる側でなく、最初から移民する人たちと一緒に。

福田 セネガル出身の留学生ニコルと友達になり、彼に仕事を手伝ってくれといわれて、サンドニのヴィドンヴィル（貧民窟）に行って、フランス語が解らない人がいるから教えてほしい、そして工場の雇用契約書にめちゃくちゃなことが書いてあるのにサインしてしまうから見てほしいということでした。ルノー

の工場なんてひどいですよ、労働時間については一切文句いわないとか、事故に遭っても賠償を求めないないとか書いてあります。

宮城 それはひどいですね。

福田 20代後半になって日本に帰ってからは高校や予備校、塾の教師などをしながら、アルジェリアについての論文を書いてアジア・アフリカ研究所とかアジア経済研究所の出版物に投稿しました。そこで岡倉古志郎先生など優れた研究者と出会いました。また当時、日中やアラブとの友好運動に力をいれていた衆議院議員の宇都宮徳馬先生に、アルジェリア協会で働いてくれと言われ、そこで日本とアラブ、北アフリカの友好・親善活動のお手伝いを20年近くしましたが、50歳近くになって明治大学に就職しました。

続くアフリカの“衝撃”

宮城 その間にもアフリカ各地を回られたのですね。

福田 本当のアフリカ“体験”をしたのはそれからですね。1996年に思い立ってザイール（今のコンゴ民主共和国）、アフリカで2番目に面積が広い国ですが、そこにザイール出身で東京医科歯科大学で博士号を取得したミランガ博士と一緒に行きました。キンシャサ空港に降り立った瞬間に価値観がガラガラ崩れてね。飛行機が空港に着いたとき、カラシニコフを持った兵士が数十人飛行機のなかに入ってきてパスポートとタグカードを全員から取り上げました。

宮城 びっくりされたでしょうね。

福田 入国検査をする所に兵士が立っていてパスポートを返却するのですが、その際、役人が「10ドル寄こせ」と言う。パスポートを持ったまま荷物を取りに行くともたまた役人が「10ドル寄こせ」と言う。払って荷物をとって外へ出ると、地面にボロボロの衣服を纏った人が何十人も這いつくばっていて、腕や脚を失った何十人もの人が「金をくれ」と手を伸ばしてくる。ああ、これが“世界の現実”なんだと。

宮城 たしかに、日本とはまったく異なる現実を突きつけられたのですね。

福田 それだけじゃない。空港から市内へ向かう道路には、裸足のサラリーマンが何百人も列をつくって歩いている。靴を買えない、舗装もままならないから、裸足で通勤するんですよ。その光景を見た瞬間、「ここで何が起きているのか、自分は何も知らないじゃないか」と痛感しました。

宮城 そこから関心がまた一段と深まった。

福田 ザイールで見た現実があまりにも衝撃的で、もう調べずにいられなくなりました。この辺の国はみんなベルギーの植民地でした。1884年から85年までヨーロッパの列強がドイツの首都ベルリンに集まってアフリカの分割を決めた。そのベルリン会議でコンゴは、レオポルド二世の個人領「コンゴ自由国」として認められました。

宮城 ひどい話です。

福田 現地の人を奴隷として酷使

宮城「アフリカの理解が世界の理解につながる」

してゴムを採取させて、当時、大量生産が始まった自動車のタイヤ用に世界に一手にゴムを供給して大儲けをしました。象牙も大量に輸出しました。その後、国王の領地コンゴはベルギー政府の領土になり、国家財政の最大の収入源になったのです。

宮城 欧州のあの小さな国が膨大な資源を手に入れたのですね。

福田 アンゴラウサギっていいですよ。耳の赤いの。あれゴム園と関係あるんですよ。採取のノルマを果たせなかった現地の人の耳を切っちゃうんですよ。耳だけではない。手足を切断しちゃうんです。だから赤いんです。とにかく言葉では表せないぐらいの拷問をやって殺しまくったんです。当時の人口の半分の人を殺しました。しかもコンゴはアフリカ大陸の中でナンバー3に入るぐらいの奴隷供給基地でもあったんですね。

反共の基地としてのコンゴ

宮城 ヨーロッパは相当ひどいことを永年やってきましたね。コンゴといえばCIAに殺されたルムンバという指導者がいましたね。

福田 彼は死ぬまでに妻を何人も変えましたが、でも非常に愛国者でした。首相になって、右腕にモブツを参謀総長に任命したら、彼に殺されちゃった。当時は隣のアンゴラでもモザンビークでも民族解放運動が燃え盛っており、コンゴは反共の拠点でした。

宮城 資源も豊富だったのでしょうか。

福田 ウランも出るしコバルトも

出る。広島に投下された原爆のウランもコンゴです。それから銅です。1960年代は銅が貴重なレアメタルだった。モブツは銅鉱山を国有化して自分のものにして、それで米英に可愛がられて独裁権力を築いたんですね。やりたい放題でした。

宮城 来日したこともありました。

福田 昭和天皇が亡くなった時です。特別機で来て、松阪牛を食べてこんな美味しいステーキ食べたことがないといって、何トンも買って帰ったそうです。飲んだサッポロビールとかキリンビールが美味しいと言って何トンか買って帰りました。しかし最後にはボロボロになっちゃって、1997年にモロッコに逃げ、翌年に亡命先のラバトで死にました。

宮城 隣のルワンダには大変な民族紛争がありましたね。

福田 少数派のツチ族が権力をもっていて多数派のフツ族は差別され続けていた。フツ族の人々は冷遇されていたのです。そこで怒ったフツ族が暴動を起こして、ツチ族を叩き出した。ウガンダに五十万人、コンゴに八十万人逃げていったんです。後の指導者のカガメも幼い時にウガンダに逃げた一人です。

宮城 そのカガメ大統領に先生は直接会われたんですよね。

福田 彼が副大統領として1997年4月に日本に来たときに講演会に参加しました。あそこ私はルワンダを調べていたので、彼の履歴を読み込んで講演にいきました。ルワンダから追い出されてウガンダでルワンダ愛国戦線をつくった男です。



宮城 アメリカ軍で訓練も受けていた。

福田 彼の配布資料に「アメリカ軍で軍事訓練」と書かれている部分が黒く塗りつぶされていたのを私は見逃さなかった（笑）。今では日本の外務省のホーム・ページに「米陸軍にて参謀・指揮官養成課程履修」と掲示されています。つまり、それほどアメリカの後ろ盾があったわけです。またカガメはウガンダ軍の軍事諜報部門の最高責任者にもなっています。十万人の精鋭部隊をつくり上げてルワンダに進攻しました。その直前に、ルワンダのフツ系の政府とそれに同調するフツ過激派によって、ツチとフツ穏健派が100万人近く殺害されました。ルアンダを制圧したカガメは、隣国に逃亡したフツ族を追ってコンゴに侵攻し、カビラと一緒にになってキンシャサを軍事的に制圧するとモブツは国外に逃亡します。

経済成長の“裏側”

宮城 ルワンダはいま経済成長でも評価されていますね。

福田 ただし、実態を見れば、統計の元になっているレアメタル

の多くはコンゴ東部から持ち出されている。彼は M23 という武装勢力を使ってコンゴ東部一帯を支配し、掘り出したレアメタルを自国のものとして計上しているのです。国際政治の最前線では、倫理と現実とは往々にして一致しない。コンゴの東部はルワンダ軍が占領して鉱物資源を持ち出しています。

宮城 やはり資源をめぐる争いですか。

福田 閣僚や高級軍人がそれぞれ独自の武装組織をもっています。スーダンでも正規軍と緊急展開部隊が戦争していますけど、背景には金やコバルトなどの鉱物資源があって奪いたいものがあるからです。コンゴ全体ではいま 120 くらいの武装組織が鉱山を支配しています。その後ろに多国籍企業や米欧・中国などの大国がいてつながっています。またコンゴの鉱山では何百万人もの人が貧困の極みに置かれ、搾取され続けています。多くの児童も強制労働に従事している。これによってハイテク産業が潤っているのです。

宮城 先生は講演のあちこちで、人口の話をされていますね。「アフリカ抜きに世界の将来を語れない」と。

福田 まったくその通りです。いま世界の人口は 80 億ですが、2050 年にはアフリカが 25 億人、つまり世界の約 3 分の 1 になる。10 年前はまだ 8 億でしたから、桁違いの増え方ですよ。欧米は合わせても 12% ほど、アフリカの迫力とは比較にならない。

宮城 経済成長率も高いですね。

福田 IMF 統計を見ると、3～6% 成長の国が多い。平均寿命も着実に延びている。教育水準も徐々に上がっている。人口の増加と経済成長、そして貧困がセットで動いているんです。貧しい人が多いけど、億万長者（ビリオネア）も多くいるんですよ。雑誌フォーブスの統計だとアフリカ全体で 22 人もいます。総資産は約 16 兆円です。

宮城 すごい話ですね。

福田 たしかに南アとかナイジェリアとかは将来、経済大国の仲間入りするなんて言う人がいますが、果たしでどうでしょうか。資源に依存したままの経済、恐るべき格差、累積債務も巨大ですから。ケニアなんか国家予算の 69% が債務返済です。

宮城 格差が日本より桁違いなのでしょうね。

福田 ケニアの首都ナイロビの中心街はきれいだし銀座と変わらない。人々のセンスもいいし、コーヒー 1 杯が 4000 円くらいします。ただその片方に電気もガスもない、もちろん水道もないような貧しい貧民窟、キガリには 100 万人以上の人々が、掘っ立て小屋をたてて産業廃棄物を集めてきて売って生活しています。

“子どもが多い社会”の論理

宮城 日本では少子化が進む一方、アフリカは出生率が高い。その背景はどこにあるのでしょうか。

福田 貧しい社会ほど子どもが多いんですよ。なぜか？ 親が老後に頼れるのは子どもだから。年金制度も社会保障もない。だから「子どもが多いほど老後の生存確率が上がる」という発想になる。これが根本なんです。

宮城 子どもは労働力でもあるということですか。

福田 ええ。モーリタニアの農村に行きましたが、7、8 歳の子が何キロも離れた井戸まで水を汲みに行く。朝 5 時から働くのが当たり前。「家族を支えるのは子ども」なんです。

宮城 先生が語ったマダガスカルの鉱山の話は、講演の中でもひときわ重いものでした。

福田 あれは忘れられません。赤い山の中腹に、蜂の巣のように穴が空いているんです。そこに 5 歳、6 歳の子どもから 15、16 歳までの若者が手掘りで横穴を掘り進む。土砂崩れも頻繁に起きる。地震が来たらひとたまりもない。掘り出したヒスイを白人バイヤーの

前に持っていき、簡易な秤で計られ、いくらかの小銭をもらう。それでまた穴に戻る。夜は掘っ立て小屋の近くで眠るんです。

宮城 完全に搾取の構造ですね。

福田 そのすぐそばにはヘリポートがあって、ヘリが何十機も飛んできてヒスイを運んでいく。子どもたちはその日暮らし。資源は吸い取られていく。政府は黙認。これが資源大陸アフリカの一側面なんです。

ロシア制裁に参加しなかった理由

宮城 ロシアのウクライナ侵攻の際、アフリカの多くの国が制裁に参加しなかったことが話題になりました。

福田 あれは象徴的でしたね。アフリカの半分の国が国連総会のロシア非難決議に棄権しました。その背景を「ロシアへの共感」と解釈する人もいるけれど、決定的なのは歴史です。

宮城 欧米の植民地支配の記憶ですね。

福田 ロシアはアフリカを植民地にしたことがない。アフリカの大半の国からすれば、「最も残酷な支配をしたのはフランス、ベルギー、イギリス」であって、ロシアではないのです。

宮城 ブルキナファソでは軍が“プーチンに敬礼する”という話もありましたね。

福田 トラレという若い大統領は軍人で政権を握りましたが、国民には支持されているようです。トラレはプーチンを最も尊敬する人物として挙げています。ウランの埋蔵量 80% を持つブルキナファソでは、独立してから今日まで国土は荒廃したままでフランスがウラン利権を独占していた。その恨みが根深いんです。

宮城 だからこそロシアが「助けに来た」というイメージが定着した。

福田 ワグネル（今はアフリカ旅団）もこの辺一帯のサヘル地域で活動しています。イスラム原理主義者との戦いでロシアが支援を続けることで、「ロシア＝助けてくれる

存在」という認識が広がっているのです。

宮城 南アフリカのラマポーザ大統領については、先生が非常に高く評価されていました。

福田 マンデラ以降で、最も政治的センスのある人物だと思います。ガザのジェノサイドを国際司法裁判所に訴えたのは、アフリカのリーダーとして勇気ある行動です。アメリカにもイスラエルにも反発されるのが分かっている踏み切った。

宮城 ただ国内には問題もあるようですね。

福田 格差やインフラ崩壊、汚職、——どれも深刻です。前のズマ政権の国家捕獲事件は象徴的で、国家そのものがまるごと吸い取られていたといわれているほどです。しかし、それでも南アを国際社会の中で牽引できるのはラマポーザしかないでしょう。

宮城 コロナでアフリカの死者が予想より少なかったという点も、先生は重要視されていました。日本や欧米ではワクチンが大量に使われて、かえって自然免疫が弱くなっているのではないかという議論があります。带状疱疹も増えている。ワクチンは“ビジネス”でもある。日本は3兆円規模で購入したといわれますが、その宣伝もすごかった。アフリカではワクチンを買えない国が多かったのではないですか。

福田 結果として自然免疫が機能していたのではないかと考えられます。もちろん正確な統計は取りにくいですが。出生届すらない国も多いですから。ただ、マダガスカルでは風邪でも死ぬ人が多いほど栄養状態が悪い。その意味では、コロナだけが特別な脅威だったわけではないという側面もあります。

アフリカは「周辺」ではない

宮城 最後に、アフリカを学ぶ意義についてうかがいたと思います。

福田 アフリカは、世界が抱えるすべての課題の“実験場”であり“縮図”です。資源争奪、人口爆発、宗教対立、移民問題、疫病、格差、腐敗、国際政治の多極化……これらはすべてアフリカで最も先鋭的に現れています。

宮城 つまり、アフリカを理解することが、歴史を知って世界を理解することにつながる。

福田 その通りです。アフリカを「周縁」とみる価値観はもう古い。これからは「中心」として見なければ、世界の動きは読めないでしょう。私はそう確信しています。

宮城 本日は長時間にわたって貴重なお話をありがとうございました。

福田 こちらこそ、ありがとうございました。

連載

核兵器禁止条約第一回再検討会議にむけて ⑥ 北東アジアの核リスクと非核三原則

新潟県 AALA 代表 谷本 盛光



1967年に佐藤栄作首相によって表明された「核は保有しない、製造もしない、持ち込まない」という三原則は国是とされてきた。今、自民党は、安保三文書改定に向け「非核三原則」の見直しに着手した。

米国は、全面戦争が起きた場合に日本の米軍基地に核を供給するとしている。これは「非核三原則」と真っ向から矛盾する。1960年の日米安保条約には核は日本に配置されないという合意が含まれていた。日本の反核世論の高揚のもと、この合意を破棄するなら米国はアジアにおいて戦略的に重要な基地を失うことになりかねなかった。

しかし、米国はこの合意に例外があるかのように行動してきた。入港する米国の軍艦のほぼすべてが核を積載していたのである。日米両政府

の「核持ち込み密約」がそれを可能にした。そのため、当時ソ連は日本の沿岸都市を、核が恒久的に配置されている場合と同じように攻撃対象としていた。今年3月の米国掃海艇の神戸入港は、「非核三原則」を厳格実施する「神戸方式」を踏みにじる暴挙である。

長崎大学核兵器廃絶研究センターなど世界の専門家チームが「北東アジアにおける核使用リスクの削減」プロジェクト（2021年から3年間）の研究成果を発表している。核使用に至る可能性のあるシナリオ5件のシミュレーションが示されており、そのうち、「台湾有事」の被害は悲惨である。米中の核24発が使用され死者は数週間で150万人となる。さらに数カ月で93万人が死亡し、放射線被ばくによる癌によって、数

十年にわたり最大83万人が死亡する。日本は戦場となり勝敗にかかわらず甚大な被害が出る。地域紛争から核の使用につながる「道筋」は数多く存在し、米中共に望まない核戦争の拡大に「滑り落ちる」可能性がある。この「道筋」は、政策決定者に見えないことが多いと結論されている。

今、日本国民は、ASEANが掲げたインド太平洋の平和・安定・繁栄を目指す「ASEANインド太平洋構想」を学ぼう。これには日中米の政府も支持を表明せざるを得なかった。日本は非核三原則を堅持することにより、北東アジアにおける平和の地域共同体づくりの先頭に立つことができる。日本AALAはその先導者の一人となろう。

当面の活動（1面のつづき）

戦争反対と平和の回復をもとめて

ウクライナ戦争の即時停戦とロシア軍の撤退、公正な平和を求めます。

イスラエルによるジェノサイドとアメリカの対イスラエル軍事援助に反対し、停戦合意の徹底を求めます。イスラエルに占領地からの撤退とパレスチナの国家承認を求めます。

自主的な国家建設をすすめるキューバやニカラグア、ベネズエラはじめ中南米カリブ海諸国にたいするアメリカの支配と干渉、軍事脅迫と攻撃に反対します。キューバにたいする経済封鎖の即時解除求めます。

非核の世界の実現をめざして

核抑止論と対峙し、日本政府に核兵器禁止条約の早期署名と批准、再検討会議にオブザーバー参加を求めます。2025年に開催された核兵器禁止条約第3回締約国会議の宣言を学び、11月にニューヨークで開催される核禁条約検討会議に代表を送る準備をすすめましょう。

内外で共同し排外主義を許さないために

在日外国人へのヘイトと対抗するため、各地域で交流をすすめましょう。日本 AALA としてもシンポの開催などを計画します。

平和の東アジア共同体をめざして

ASEAN に学び交流し、アジア諸国民と連帯を強めます。

1. 2026年議長国のフィリピンへ署名提出にむけ第12次国際署名のにとりくみましょう。
2. 台湾問題での高市発言の撤回を求めます。兩岸に武力行使を排した平和と話し合い解決を求め、他国の軍事介入に反対します。5月（予定）に3回目の台湾訪問を実施、現地で交流するとともに、秋の平和大会に3回目となる台湾分科会を開催します。
3. 「石垣島・与那国島・宮古島3島めぐる平和交流の旅」を継続し、西南諸島への基地拡大に反対するとりくみをすすめます。

マレーシア歴史と
連帯の旅に参加して

埼玉 AALA 代表委員 大久保賢一



11月30日から12月5日まで、マレーシアの旅に参加した。私のマレーシアについての知識は、2007年にコスタリカと共同で国連に「モデル核兵器条約」を提案したことくらいだ。1996年に国際司法裁判所の勧告的意見が出され、翌年にコスタリカが「モデル核兵器条約」を提案し、それをバージョンアップしたものだった。その後、2017年には「核兵器禁止条約」が採択され、2021年に発効していることはご承知のとおりだ。「モデル核兵器条約」は「地球の生き残り」をかけてのものだと理解していた私は、マレーシアの先駆性を高く評価していたのでそんな国に行ってみようと思ったのだ。

直接の目的

それはそれとして、旅の直接の目的は、ASEANの議長国をしているマレーシアに「戦争するなどの国も」の署名を届けることだった。その署名の趣旨は「対立ではなく協力を優先する」「戦争をしないルールを作成する」のふたつだ。マレーシア外務省がそれを受け取ってくれるかどうか不安ではあったが、何とか無事に1万1756筆の署名を渡すことはできた。担当のファウル副局長は「平和についての署名ですね」とにこやかに対応してくれた（写真右から3人目。右端が筆者）。一昨年のASEAN本部でのように全員が参

加できればいいのにと考えたものだった。

ASEAN の悩み

マレーシアの元国会議員のサンチャゴ・チャールズ氏（65歳）と話をすることがあった。最も印象に残ったのは、ミャンマーの実情についての話だ。アウン・サン・スー・チー政権を軍事クーデターで打倒した現在の政権とASEANはどう向き合うべきか。軍事政権と反政府勢力との闘争、それに伴う非人道的被害、軍事政権が提起している総選挙に対する態度、加えて、中国の紛争当事者双方に対する「肩入れ」など難度の高いジグソーパズルのようだ。それでも、

ASEANは軍事政権も含め、当事者から話を丁寧に聞くことを続けているそうだ。国家間だけではなく国内にも厳しい対立がある地域で「戦争をしないルール」を維持していくことは決して容易なことではないであろう。けれども、それに失敗した時、ASEANはまた

不信と混乱世界に戻ってしまうのだ。ASEANにも悩みはあるようだ。

慰霊と反省

今回は慰霊と反省の旅でもあった。大日本帝国はマレーシアでも爪痕を残していた。とりわけ華僑の人々に対する弾圧は常軌を逸し

たものだった。戦争に際して、非軍人に対する攻撃や不必要な苦痛をもたらす武器の使用は禁止されている。日本軍はそんな禁止などは無視して暴虐の限りを尽くしたのだ。ある慰霊碑に「世界和平」の文字が刻まれていた。重く受け止めなければならないと思う。

ベトナム戦争終結 50 周年

ひびけサイゴン女性元政治囚のうたごえ



ベトナムと「青い空は」

「青い空は」(小森香子作詞 大西進作曲)は1971年の第17回原水爆禁止世界大会で発表されました。その直後にベトナム語に訳され当時の人気歌手男女の歌声で、戦争中、ハノイからラジオでベトナム全土に放送されたと「赤旗」(1971年8月9日)で報じられています。日本で広まる前にベトナムで歌われていたのです。一説によるとアメリカの原爆使用を阻止するためだったとのことです。

ある時、鈴木勝比古さんから「ベトナムで元女性政治囚の合唱グループが『青い空は』を歌っている」という話が大西進さんに伝えました。大西さんはぜひその歌を聞きたい、できたら一緒に歌いたいと希望され、富士国際旅行社が「ベトナムで歌おう『青い空は』交流の旅」(2018年1月13～18日)としてツアーを企画。大西、小森両先生とともに合唱団コール・かるがもの団員をはじめ全国からも集まり45人がツアーに参加しました。

ホーチミン市文化大学で開催された「日本ベトナム交流音楽祭典」

は舞踊劇や歌など多彩ですばらしい内容でした。中でも、女性元政治囚の合唱団が「青い空は」を1番から3番まで日本語でしっかりと歌われたのには驚き、その熱意と努力に感心するばかりでした。圧巻はフィナーレの大合唱。大西進先生の指揮で互いに腕を組み舞台と客席が一体となって歌ったのは忘れることはできません。

今回はその時のご縁でコール・かるがもは「ベトナム終結50周年ひびけサイゴン女性元政治囚のうたごえ」に参加させていただきました。第二部の始め、団長さんの格調高いごあいさつに感銘を受け、お疲れにもかかわらず凛として堂々と踊り歌う姿に苦難に耐え抜いてきた彼女たちの強さを改めて感じ入りました。私たちは「ベ

トナムに送るまい」と「春の使者」2曲を歌い、フィナーレは大西進先生の指揮で「青い空は」を一緒に歌いました(写真)。

はじめ団員の一人が、♪モットバウ チャーイ ヴァン マイサイン〜(青い空は 青いままで)とベトナム語で歌い出すと、ベトナムの方々もすぐに歌い出し、続いて日本語でも一緒に歌ってください感激いたしました。ベトナム戦争終結50周年の記念すべき年に、日本で元女性政治囚の方々と再会でき、一緒に歌うことができ、大変うれしく光栄に思っております。「青い空は」がつないできたこのご縁をこれからも大切に長く続くことを願っています。(合唱団「コール・かるがも」団長 比留川征子)

関西地区

みんなの協力で成功させた 歓迎レセプション

大阪 AALA は今年2月、ベトナム戦争終結50周年を記念してベトナム平和ツアーを23名の参加で実施しました。ホーチミン市で元政治囚歌唱団の方々から大歓迎を受け、心温まる歌声交流の時

間を共有しました。旅行後まもなく、歌唱団の来日計画を知り、日本滞在費の捻出など難しい問題はあるものの、ぜひ関西で心のこもった歓迎行事をしたい、と心躍らせ準備を始めました。

関西各府県の AALA に呼びかけ、日本ベトナム友好協会の方々の協力を得て関西実行委員会が発足しました。関西地区滞在3日間

の内1泊は、関西実行委員長を務められた日本ベトナム協会・井ノ尾氏が奈良・山添村の別宅を提供くださり、バーベキューでもてなすことになりました。

さて、大阪での歓迎会はどのような形にするのか。さまざまな意見があり悩ましい決断でしたが、滞在費用などの捻出を念頭に、ホテルでのレセプション形式で、会費1万円、目標人数100名と決めました。いったい目標達成できるのか。手探りのスタートでした。まず、大阪 AALA 会員に会報で知らせるとともに、ベトナム旅行参加者に実行委員に加わってほしいと声をかけました。特に参加をお願いしたい AALA 会員、知人には、

呼びかけの手紙を送りました。チラシを合計1万枚印刷し、各友好団体を訪問、配布を依頼しました。新聞にも折り込みました。雑誌、新聞などで来日が報道され、口コミの効果もあって、やがて、じわじわと申込みが増えカンパが届け始めました。

当日、レセプションには会場いっぱい120名が集いました(写真)。日本ベトナム友好協会をはじめ、多くの平和団体・組織の方々が参加されました。最後は会場が一体となって大合唱。ベトナム戦争当時、歌を力に闘った女性たちと、遠い日本で支援をしてきた人



たちが、50年を経て一堂に介した感動的な時間でした。

大阪 AALA メンバーの得手を活かした地道な取組みと、歌唱団との間に深い絆を感じた多くの平和団体・組織の協力によって成功した歓迎レセプションでした。皆様のあたたかい支援に感謝でいっぱいです。(大阪 AALA 尾川理江)

AAPSO 第13回大会へ代表派遣

募金のお願い

アジア・アフリカ人民連帯機構(AAPSO)は、日本 AALA が創設(1957年)にかかわった国際連帯組織です。非同盟首脳会議のオブザーバー組織でもあり、日本 AALA は AAPSO を通じて首脳会議に毎回参加してきました。昨年10月にカイロで第12回大会がおこなわれ、新しい議長と事務局長が選出され、バンドン精神を受け次ぎ、覇権主義に反対して公正な世界秩序をめざして協力しようと決意を表明しました。今度の13回大会ではその具体的

な行動計画を話し合うものです。イラク北部のイルビルで開催され、日本 AALA からは2人の参加を予定しています。渡航費用をまかなうため一口1000円当たりのカンパを呼びかけます。

- 郵便振替口座 00110-6-7234 日本 AALA 連帯委員会
 - ゆうちょ銀行当座 〇一九(ゼロイチキュー店)
口座番号 0072434 ※「0」は数字
日本 AALA 連帯委員
- *通信欄に、「AAPSO 募金」と必ず記入してください。

わたしと

183



AALA

京都 AALA

まつむら ひろこ

私は高卒で保険会社へ就職。全日本損害保険労働組合(産業別労働組合)の分裂に反対して、少数組合員として定年まで働きました。保険の精神は「一人は万人のために。万人は一人のために」と

いうのに感動しました。しかし仕事のストレスは結構あり、登山と海外旅行は、新しい世界を見るのに私には必須でした。

パスポート持参で返還前の沖縄に行き、米軍基地や伊江島での闘いに触れて、日本の現実を目覚めました。ベトナム人民の闘いは私の青春時代とともにありました。

AALA 主催の南西諸島の旅や、今回のベトナムで戦ってこられた女性たちとの交流は、本当にうれしい企画でした。

さて入会のきっかけは、町内に

引っ越してこられた井上史さんのお誘いです。「あなた海外旅行好きでしょ。英会話教室に来ない?」。今でもジャパニズ・イングリッシュですが、このお誘いがきっかけで世界の人達と平和の運動や歴史・暮らしを知ることができます。何よりネットの排外主義にまどわされない自分の頭で考え行動することができます。これがもっとも素敵なことかと思っています。思想や立場や年齢の違いを超えて交流できる AALA がもっと大きく広がってほしいです。

編集・発行

日本アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会

JAPAN ASIA AFRICA LATIN AMERICA
SOLIDARITY COMMITTEE



住所 〒105-0014 東京都港区芝1-4-9 平和会館6階

電話: 03 (6453) 7297 HomePage <https://www.japan-aala.org/>

FAX: 03 (6453) 7298 E-mail: info@japan-aala.org

振替 00110-6-72434 毎月1回1日発行1部150円(送料別63円)

